

第10回（平成30年度）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム開催概要

1 日時

平成31年2月9日（土）

■「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 午後1時～1時50分

■「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム 午後2時10分～4時40分

2 場所

国立京都国際会館 メインホール

3 内容

（1）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

クリスティアナ・フィゲレス 氏（外交官／前国連気候変動枠組条約事務局長）、山折哲雄 氏（宗教学者）、エゴ・レモス 氏（歌手／環境保全活動家）を第10回殿堂入り者として顕彰し、認定証及び記念品を授与しました。殿堂入り者からは記念スピーチを頂きました。



認定証の授与



表彰式 会長挨拶

（2）国際シンポジウム

『「新たな常識」：気候変動に立ち向かう』をテーマにシンポジウムを開催しました。

ア 記念講演

【クリスティアナ・フィゲレス 氏】



国連に加盟する全ての国地域を巻き込んだパリ協定は、京都議定書から、明確なゴールやタイムライン、そして具体的な評価手法について、多いに参考にしたとされ、今後は、地球環境の保全に向けて、単に自然を破壊しないだけでなく、より積極的に行動を起こしていく必要があると、述べられました。

【山折 哲雄氏】



これまでの環境問題への対策は、西欧を中心とした基準作りをもとに進められてきたが、より多層的な視点を取り入れる等、異なる尺度の必要性について、述べられました。例えば、環境問題として取り上げられやすい、生物多様性についても、水や石、土や空も含めた、より広範な解釈も必要だとされました。

【エゴ・レモス 氏】



栄養失調の削減や食糧自給率の改善を目指し、そして環境負荷の少ない持続的農業手法である「パーマカルチャー」の、意義と価値観の重要性について、述べられました。また、他国地域でも応用できる、パーマカルチャーのガイドブックについて、紹介されました。

イ トークセッション



〔対談形式〕

エゴ・レモス 氏（殿堂入り者）

阿部 健一 氏（総合地球環境学研究所 教授）

「10周年記念特別賞※」の創設を記念し、対談形式により、エゴ氏の活動や生き立ちについて触れ、音楽演奏も披露いただきました。

ウ パネルディスカッション



〔パネリスト〕

クリスティアナ・フィゲレス 氏（殿堂入り者）

山折 哲雄 氏（殿堂入り者）

末吉 竹二郎 氏

（気候変動イニシアティブ代表呼びかけ人／国連環境計画・金融イニシアティブ特別顧問）

〔コーディネーター〕

山極 壽一 氏（京都大学 総長）

※10周年記念特別賞：

環境保全に寄与する地域での活動に従事し、今後も、人々の環境意識向上に向けて効果的な発信を行うことが期待できる方を表彰する